

## オルビス、「甲州市・オルビスの森」完成記念式典を開催 “人々が集い自然と親しむ里山”として再出発 CO2削減に向けた第一歩



ポーラ・オルビスグループのオルビス株式会社(本社:東京都品川区、代表取締役社長:小林琢磨)と山梨県甲州市(市長:鈴木幹夫)、公益財団法人オイスカ(本部:東京都杉並区、理事長:中野悦子 以下オイスカ)は、山梨県甲州市に広がる荒廃した森林を里山として再生した「甲州市・オルビスの森」の完成記念式典を2021年10月20日(水)に行いました。



「甲州市・オルビスの森」看板の除幕式の様子  
(左から順に、丸山国一(甲州市議会議長)、鈴木幹夫(甲州市長)、  
福島幹之(オルビス(株)取締役執行役員)、  
金丸信吾((公財)オイスカ山梨県支部会長))



鈴木幹夫甲州市長よりオルビスへ感謝状贈呈

オルビスは2012年から約10年間にわたり、山梨県甲州市に広がる荒廃した森林を、人と森をつなぐ里山として再生させる「甲州市・オルビスの森」プロジェクトを推進してきました。この森の再生を目的とした社員参加型のボランティアイベントを年に2回開催し、植林や下草刈り、間伐体験や遊歩道の設置等、様々な活動を甲州市ならびにオイスカと継続し行ってきました。この度“人々が集い自然と親しむ里山”として、森の間伐材からできたイベントスペース「木漏れ日のステージ」や遊歩道を整備したことで、人が集い、交流し、環境について学ぶことのできる「甲州市・オルビスの森」が完成しました(補足資料1・2)。

### 「甲州市・オルビスの森」について

甲州市塩山上小田原にある広さ約100ha(東京ドーム約21個分の広さ\*)の市有林です。2010年当初、企業が環境対策として取り組む森林スペースとしては数haが一般的だった時代に、CO2削減に一定の効果が見込めるとされる100haという広大な土地を「甲州市・オルビスの森」として掲げ、同地の整備、保全に向けた協定を2011年1月31日に締結。甲州市やオイスカと連携しながら森の整備や、間伐材の有効活用に取り組んできました。今後は一般に開放し、甲州市にて市内外の小学校の校外学習やイベントなどで活用される予定です。

※東京ドームの敷地面積を46,755㎡として換算

### オルビスの環境活動について

オルビスは、1984年の創業当時より国内外で様々な環境負荷低減に取り組んできました。国内では、2002年より甲府市の「武田の杜」、2007年からは鳴沢村の富士山麓での保全活動、2012年からは「甲州市・オルビスの森」プロジェクト活動を開始した他、海外では、フィジー共和国の子供たちとの交流、マングローブの植林などを実施してきました。これらの長年にわたる取り組みが認められ、2019年には日本政府より紺綬褒章を受章、更に2020年には環境省の地域環境美化功績者表彰を受賞しました。

【報道関係者の皆さまからのお問い合わせ先】(株)ポーラ・オルビスホールディングス コーポレートコミュニケーション室

広報担当 Tel 03-3563-5540 / Mail [webmaster@po-holdings.co.jp](mailto:webmaster@po-holdings.co.jp)

※在宅勤務を推奨しているため、お電話が繋がらない際は、メールにてお問い合わせください。

## 【補足資料 1】「甲州市・オルビスの森」の概要

所在地: 山梨県甲州市塩山上小田原

広さ: 約 100ha

特徴: スギ、ヒノキ、アカマツ等の針葉樹の他、コナラやクスギ等の広葉樹を備えた広大な雑木林を有しており、山梨県内でも非常に貴重な土地であると評価されています。

### < 主な活動・受賞歴 >

- 2011 年 オルビス、甲州市、オイスカ、甲州市里山創造推進協議会による「森林整備協定」締結 「甲州市・オルビスの森」命名  
オイスカ・インターナショナル (The Organization for Industrial, Spiritual and Cultural Advancement-International) より特別功労賞を受賞
- 2012 年 オルビス社員によるボランティア活動 (植林・下草刈り・間伐体験 (2014 年～)) 開始  
東日本大震災により野外での活動が制限されている東北の子どもたちのために国産の間伐材から生まれた積み木で遊ぶ機会を提供する「森のつみ木広場」開催の支援開始
- 2017 年 間伐材を使ったベンチを JR 塩山駅に設置
- 2018 年 遊歩道整備開始
- 2019 年 日本政府より紺綬褒章 (褒状) を受章  
「甲州市・オルビスの森」含む「甲武信 (こぶし)」地域がユネスコエコパークに認定  
令和元年度「ふれあいの森林づくり」国土緑化推進機構理事長賞を受賞
- 2020 年 環境省より地域環境美化功績者表彰を受賞

## 【補足資料 2】 間伐材を使った設備

間伐とは、込みすぎた立ち木の一部を抜き刈りすることで十分な光や栄養が一本一本の木々に行き渡るようにする目的で行われ、森林全体を育てていくために大変重要なメンテナンス作業の一つです。また、間伐した材を活用せずに腐らせてしまうと CO<sub>2</sub> の放出につながりますが、ベンチなどに活用し固定化することで、CO<sub>2</sub> 放出を防ぐことができます。

### ■ 木漏れ日のステージ

かつて水田だった棚田地形の段差を利用し、「甲州市・オルビスの森」の間伐材を用いた約 80 m<sup>2</sup>のステージを設置しました。イベントへの活用の他、生物多様性の体験や水循環の観察といった環境学習が行えるスペースです。

### ■ 遊歩道・階段

間伐材を並べ、遊歩道や階段を設置しました。歩道を進むと整備された人工林や雑木林の様々な木々に出会えます。

### ■ 四季の展望台

約 30 m<sup>2</sup>の展望台の眼下には、オルビスの社員が植樹した桜の森が広がっています。また、展望台の横にはブドウ畑「メルシャン天狗沢ヴァインヤード」を備え、数年後にはこの畑から採れたブドウでワインが作られる予定です。

### ■ JR 塩山駅に設置したベンチ

「甲州市・オルビスの森」への入り口となる JR 塩山駅には、間伐材を使ったベンチが設置されています。

## 【補足資料 3】 ポーラ・オルビスグループのサステナビリティプラン

ポーラ・オルビスグループでは、2017年にグループ理念を策定すると同時に、ポーラ・オルビスグループ行動綱領の改定、理念実現のためのサステナビリティステートメントを策定しました。「先端技術・サービスによるQOLの向上」「地域活性」「文化・芸術・デザイン」の3つの軸に加え、企業の基盤となる「人材活躍」と社会的責任である「環境対応」を土台とした5つの領域で、非財務目標を設定しています。

ポーラ・オルビスグループでは、持続可能な事業活動を実現する事でステークホルダーの皆さまとの信頼関係を強化し、今後も企業価値の向上につなげて参ります。

➤グループのサステナビリティプランはこちらから <https://www.po-holdings.co.jp/csr/data/pdf/sustainability2021.pdf>